

「懷山のおくない」伝える特別展

浜松市天竜区懷山に伝わる国の重要無形民俗文化財「懷山のおくない」を伝える特別展（中日新聞東海本社後援）が14日から、同市中央区中央の静岡文化芸術大ギャラリーで始まる。入場無料。19日まで。

36世帯、約70人が住む懷山。おくないは、正月の仏教行事

文化芸大で
きょうから

「修正会」を指す「おくない」がなまった言葉という。懷山では毎年1月3日に地元の泰蔵院で五穀豊穡や子孫繁栄などを祈る舞と芸能が奉納される。

13日には関係者向けの内覧会があった。特別展の企画、運営には同大の学生8人が携わっており「途絶えさせないように少しでも興味を持ってもらえたら」と話した。

前段の祭事を含め約30の演目があり、会場ではそれらに用いられる貴重な面や刀などを紹介。懷山のおくないを伝える映像や継承に取り組む学生の活動写真なども展示し、それらを第1～3章の構成で紹介する。

同大地域連携センター、市無形民俗文化財保護団体連絡会共催。開場は午前10時40分～午後5時50分。15日午後1時半からは大学講堂で無料の講演会もある。◎同大地域連携室 053（457）6105

（村松秀規）

舞で使われる刀などが展示されている会場＝浜松市中央区の静岡文化芸術大ギャラリーで

